

## 日常生活等と関連した展開例（幼稚園）

## &lt;展開例 幼&gt;

## 5歳

「日常生活の中で安全（防災）に関する意識や態度を高める指導」

## ■主な活動

ドッジボールをする

## ■保育の目標

- ・ 自分の体を自分の思うように動かして遊ぶ。
- ・ ルールを理解し、周囲の状況に応じて素早く動く。
- ・ 自分の思いを言葉で相手に伝わるように話す。
- ・ 周りがある物や人の動きを感じ、安全に行動しようとする。

みんながなかよく、楽しく遊ぶためには、どうしたらいいかな。

- ・ ルールをまもる。
- ・ 友達がこまることはしない。

園庭でドッジボールをするときに、あぶないことはどんなことがあるかな。

- ・ ドッジボールをしているところに、小さい組さんがきたら、ボールを投げないようにする。
- ・ ひろいところで遊ぶようにする。

## 【防災教育の視点】

- ・ 安全な遊び方のルールを知り、危険を回避できるように考える。
- ・ ボールを投げたり、よけたり、うけたりすることで、自分の体のバランスを考えて動く。
- ・ 友だちの動き、ボールの動き等に対応して自分も動く。
- ・ 周囲の友だちの遊びや動きを見ながら、場を選んだり、状況を考えたりして遊ぶ。

## 教科等と関連した展開例（小学校）

## &lt;展開例1&gt;

## 1年 国語

「どうやってみをまもるのかな」（関連：特別活動）

## ■単元の目標

- ・事柄の順序を考えながら内容の大体を捉え、分かったことを伝え合うことができる。

## ■指導計画

- 1 「どうやってみをまもるのかな」を通読する。動物について説明された文章を読み、書かれていたことを説明するという学習課題を確かめる。
- 2 文章全体を四つのまとまりに分ける。
- 3 それぞれの動物の身の守り方を読み取る。出てくる動物、体のつくり、身の守り方を対応させて読む。読み取ったことについて挿絵を使いながら説明する。
- 4 読んだ感想を交流する。

## ■【第5時】

- 1 全文を音読する。
- 2 読んだ感想を交流する。
- 3 自分自身について考える。

私たちは、大きな地震や台風から身を守るための体のつくりがありますか。

- ・あるのかな。
- ・ありません。

では、私たちは大きな地震や台風からどうやって身を守りますか。

- ・せんせいのはなしをしっかりきく。
- ・みんなで ちからをあわせる。

## 【防災教育の視点】

自然災害から身を守るために何が必要か、何に気をつけるかを考える。

## &lt;展開例2&gt;

## 2年 算数

「三角形と四角形」「形をしらべよう」

「さんかくやしかくの形をしらべよう」(関連：特別活動)

## ■単元の目標

- ・ 図形に関わる数学的活動を通して、三角形、四角形について知り、図形を構成する要素に着目し、構成の仕方を考えるとともに、身の回りのものの形を図形として捉えることができる。

## ■【第9時】

- 1 四角形、三角形の定義について確認する。
- 2 身のまわりの四角形をさがす。

みんなの回りに四角形のかたちをしたものはあるかな。

- ・ 生活の教科書も活用する。

これは、どんな意味があるのかな。(標識について)

- ・ 安全にかかわる標識について確認する。
- 3 見つけたものを発表し合う。
  - 4 見つけたものがなぜその形といえるのか、理由を説明する。

## 【防災教育の視点】

防災に関する標識について関心を高める。



## ＜展開例3＞

## 1年 生活

「がっこう だいすき」

## ■単元の目標

- ・学校探検や通学路探検を通じて、学校の施設の様子や学校生活を支えている友達、通学路の様子やその安全を守っている人々と自分との関わりを見つけ、学校生活を支えている人々や友達のことが分かるとともに、楽しく安心して遊びや生活をしたり、安全に登下校をしたりすることができるようにする。

## ■指導計画

- 1 みんなで通学路の一部を歩き、地域の人々や安全を守っている人々と触れ合い、安全な歩き方を知る。
- 2 安全を守っている人や施設について話し合う。

自分の通学路には、どんな人がいて、どんなものがあるかな。

## ■【第1時】

みんなで探検するときに、気をつけることは何かな。

- ・桜の木がいっぱいあるよ。
- ・見守り隊の人たちがいるよ。
- ・子ども110番の家があるよ。

みんなを守ってくれる人や物をたくさん見つけよう。

- ・整列して歩きます。
- ・勝手なことはしません。
- ・大きな声であいさつします。

## ■【防災教育の視点】

地域の中で安全を守っている人や安全のための施設について知り、危険を感じた時にどう行動すべきか考える。

## &lt;展開例4&gt;

## 2年 生活

「どきどきわくわくまちたんけん」

「まちが大すきたんけんたい」

## ■単元の目標

- ・地域のさまざまな場所を訪問したり利用したりする活動を通して、地域の場所と自分との関わりを見つけ、地域にはさまざまな場所があり、人がいることや地域の場所が自分の生活と関わっていることに気づくとともに、地域の場所や人々に親しみをもち、適切に接したり、安全に生活したりしようとすることができるようにする。

## ■指導の留意点

まちたんけんで見つけたものを発表しよう。

- 1 見つけたことやその役割などについて振り返り、記録カードにかく。
- 2 まちたんけんマップに記録カードを貼る。

みんなのまちでも見たことがあるかな。

- ・ どんな音が聞こえたかな。
- ・ どのようにおいがするかな。
- ・ 何をあらわしているかな。
- ・ 絵や写真の中で見たことのあるものを発表しあう。

## 【防災教育の視点】

まちの中にある安全にかかわる物や施設について知り、危険を感じた時にどう行動すべきか考える。

<展開例5>

3年 算数

「長さ」「長い長さを表そう」「長い長さをはかって表そう」(関連：特別活動)

■単元目標

- ・量の単位と測定に関わる数学的活動を通して、長さの単位について知り、適切な単位で表し、単位の関係を統合的に考察することができる。

■【やってみよう】

- 1 標識について話をする。

この標識を見たことがありますか。どんな意味があるのかな。

- 2 標識に書かれた長さについて考える。

〇〇〇mは、何歩でいけるかな。また、何分かかかるかな。

- 3 実際に歩いてみる。
- 4 かかった歩数や時間について話し合う。



【防災教育の視点】

災害時避難場所までの距離や時間の感覚をつかむ。

<展開例6>

3年 算数

「長さ」「長い長さを表そう」「長い長さをはかって表そう」(関連：特別活動)

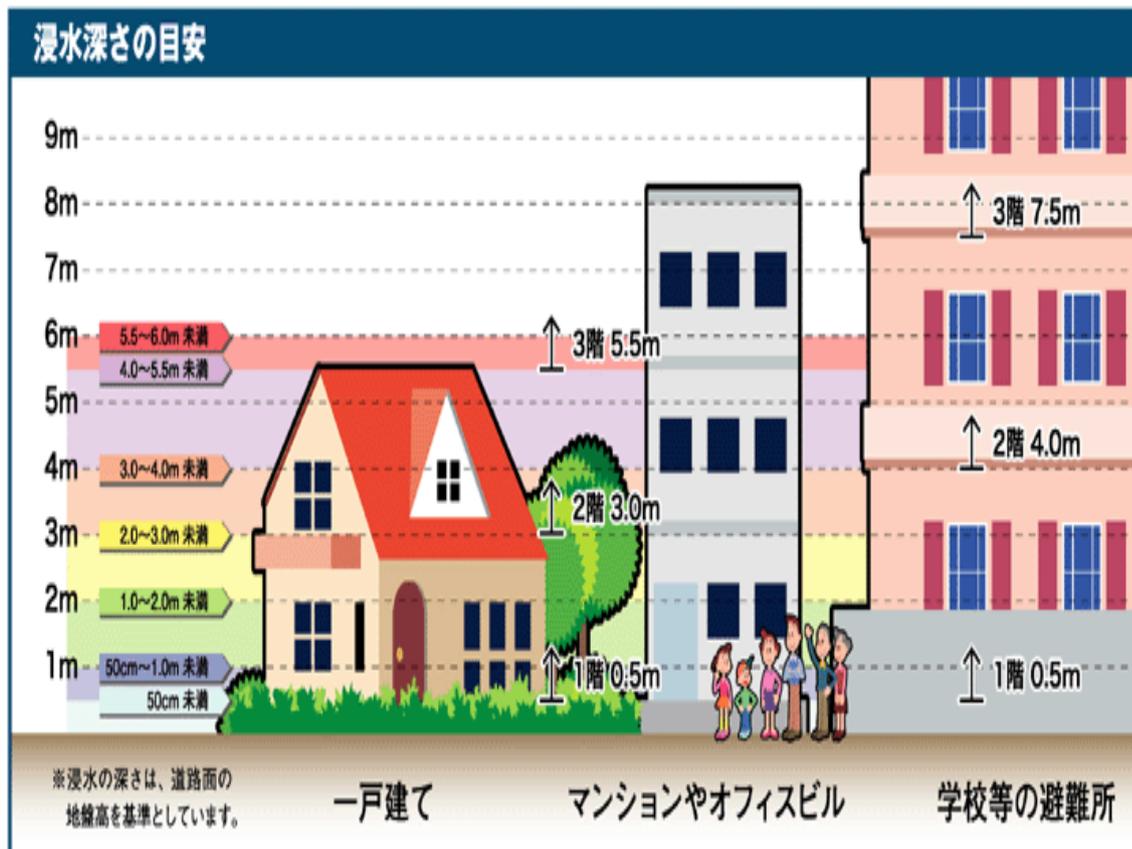
■単元目標

- ・量の単位と測定に関わる数学的活動を通して、長さの単位について知り、適切な単位で表し、単位の間関係を統合的に考察することができる。

■〔やってみよう〕

図の中に示されたいろいろな長さを実測して体感する。

津波の避難訓練では学校の3階以上に避難していますが、その7mや8mとはどんな高さなのかな。



【防災教育の視点】

津波の大きさを実感するとともに、津波発生時の行動について考える。

## &lt;展開例7&gt;

## 3・4年 算数

「小数」「1より小さい数を表そう」「数の表し方やしくみを調べよう」

「小数のしくみを考えよう」「小数のしくみを調べよう」(関連:特別活動)

## ■単元目標

- ・小数とその表し方に関わる数学的活動を通して、端数部分の大きさを表すのに小数を用いることを知り、数のまとまりに着目し、小数でも数の大きさを比べたり計算したりできるかどうかを考えるとともに、小数を日常生活に生かすことができる。

## ■【こんな数を見たことがあるかな?】

- 1 日常生活の中で、小数の表記がどこで使われているか話し合う。

「小数」は、どんなところに使われているか見つけよう。

- 2 持ち寄った具体物を観察しながら、なぜ小数が使われているのかを話し合う。

これは、どんな意味があるのかな。(標識について)



## 【防災教育の視点】

防災に関する標識について関心を高める。

## &lt;展開例8&gt;

## 3年 理科

## 「風とゴムの力のはたらき」(関連:特別活動)

## ■単元の目標

- ・風とゴムの力と物の動くようすに着目して、それらを比較しながら、風とゴムの力の働きを調べる活動を通して、それらについての理解を図り、台風などの強風から身を守る方法について考えられるようにする。

## ■指導計画

- 1 風やゴムで、ものを動かしてみよう。
- 2 風が強くなると、風がものを動かす力は、どうなるのだろうか。
- 3 輪ゴムの引っ張る長さや、輪ゴムの本数を変えると、ゴムの力はどうなるのだろうか。
- 4 まとめよう/たしかめよう/力だめし ひろげよう (たこあげ合せん)

## ■【第1時】

- 1 風やゴムで遊んだことを思い出す。
- 2 台風による影響を考える。

風が強いときのかさの写真を見て、台風で、かさ折れて飛んでいってしまうのは、風速何メートルぐらいだと思いますか。

- ・ 実験では、大人の人が持っているかさが、風速 17メートルで飛んでしまった。
- ・ 台風では、風速 50メートルを超えることも珍しくない。風速 50メートルでは、飛んだかさがガラスを突き破ってしまうほど危険である。

台風が近づいてきたら、気をつけることはあるかな。

- ・ 外へ出ない。
  - ・ 流れている水に近づかない。
  - ・ エレベーターを使わない。
  - ・ ベランダにある植木鉢、物干し竿など飛ばされる可能性があるものは、室内に取り込んでおく。
- 3 風で動かせそうなもの考える。
  - 4 「帆」をつけた車をつくる。

## 【防災教育の視点】

自然災害について知り、自らの身を守ることができる。

## ＜展開例9＞

## 4年 社会

「くらしを守る」「自然災害からくらしを守る」

「安全なくらしを守る」「自然災害から人々を守る活動」(関連：学校行事)

## ■単元の目標

- ・地域における災害・事故防止について意欲的に調べ、地域社会の一員として態度を育てる。
- ・関係諸機関が相互連携して緊急体制を取っていることを調べ、人々の工夫や努力を考える。

## ■指導計画

- |                |                   |
|----------------|-------------------|
| 1 火事について調べよう   | 2 学校の消防せつびを調べよう   |
| 3 消防署の仕事を調べよう  | 4 地域や家庭の取り組みを調べよう |
| 5 おそろしい地震      | 6 地震へのそなえを調べよう    |
| 7 災害から地域を守るために | 8 地域の安全のこれから      |

## ■【第6時】

- 1 身のまわりにある地震の備えについて話し合う。
- 2 学校や地域にある地震に備えるための施設や設備を調べる。
- 3 災害から身を守る知識や方法と、それを伝え広めることの大切さについて考える。

学校や地域は、地震に備えてどのような取り組みをしているのかな。

- ・ 地震に備えて体育館の天井や校舎の耐震工事をしているよ。
- ・ 学校の防災備蓄倉庫を見せてもらったよ。毛布や水や食料や簡易トイレがあったよ。
- ・ 校門の前には、災害時避難所と書いてあるよ。
- ・ 大きな道路には、広域避難場所という案内板があるよ。

わたしたちは調べて初めて知ったけれど、地域の人々は知っているのかな。

- ・ 施設や設備だけでなく、使い方とか、助け合いも大切だと思う。
- ・ 命を守る取り組みを伝えたり広めたりして、みんなが知っていなければいけない。

- 4 府や市、学校や地域の地震などの災害に対する備えについて話し合う。

## 【防災教育の視点】

関係機関が地域と協力して震災に対する備えに努めていることを理解する。

<展開例 10>

5年 社会

「日本の国土と人々の暮らし」「国土の環境を守る」  
「わたしたちの国土」「わたしたちの生活と環境」

■単元の目標

- ・地震や津波、風水害などの自然災害の様子と、国や府の対策事業を調べる。
- ・自然災害と国土環境の関連や、国民一人一人の防災意識を高めることの大切さを考える。

■指導計画

- 1 自然災害が多い日本
- 2 自然災害と人々の暮らし
- 3 自然災害に強いまちづくり
- 4 防災家族会議を開こう

■【第4時】

- 1 自分たちでできる災害への備えについて話し合う。
- 2 既習事項をもとに防災家族会議で話し合う内容について話し合う。

災害への備えについて、家族でどのような話し合いをしなければいけないだろうか。

- ・ 1人1人で確認すること・・・災害の恐ろしさ、防災に関する知識 など
  - ・ 家族で確認すること・・・ハザードマップ、避難経路、避難場所、集合場所、  
備蓄物資、災害伝言ダイヤル、家具設備点検など
  - ・ 地域にはたらきかけること・・・近所とのつながり、避難訓練への参加 など
- 3 防災家族会議で話し合う内容のチェック項目を表にまとめる。
  - 4 防災家族会議チェック表を発表することで、市民一人一人の防災や減災への関わりの大切さについて話し合い、実際に各家庭で防災家族会議を開く。

【防災教育の視点】

これまでの防災学習をふりかえり、学んだ防災に関する知識を実践に生かそうとする意欲や態度を育てる。

## ＜展開例 11＞

## 5年 算数

「割合のグラフ」「割合をグラフに表そう」

「割合をグラフに表して調べよう」(関連：特別活動)

## ■単元の目標

- ・資料における数量の比較や全体や部分の関係の考察などで割合を用いる場合があることや、その表し方についての百分率について理解するとともに、資料を円グラフや帯グラフを用いて表したり、特徴を調べたりすることができるようにする。

## ■指導計画

- 1 割合の意味を理解し、比較量と基準量から割合の求め方を理解する。
- 2 百分率や歩合の意味とその表し方を理解する。
- 3 比較量、基準量、割合の関係を理解する。
- 4 帯グラフや円グラフの読み方や特徴を理解し、かき方を理解する。
- 5 グラフから割合や絶対量を読み取り、問題を解決する。

## ■【第9時】

- 1 「災害が起こる前に用意しておきたいもの」についてのアンケート結果を見て、気づいたことを話し合う。
- 2 本時の課題を確認する。
 

円グラフや帯グラフに表そう。

  - ・それぞれのグラフの特徴を確認する。
- 3 割合をグラフに表す。
  - ・それぞれのグラフの表し方のきまりを一緒に確認する。
  - ・特徴がとらえやすいように工夫するよう助言する。

＜準備物＞「災害が起こる前に用意しておきたいもの」アンケート

(事前に学級活動等でクラスアンケートを行っておく)

## 【防災教育の視点】

災害時に必要なものを自ら考えるとともに、友達の見解も知ることによって災害に対する意識を高める。

## &lt;展開例 12&gt;

## 6年 社会

「自然災害からの復旧や復興の取り組み」

「アジア・太平洋に広がる戦争」「新しい日本のあゆみ」

「震災復興の願いを実現する政治」「世界に歩みだした日本」

「新しい日本、平和な日本へ」

## ■単元の目標

- ・政治の働きに関心を持ち、具体的事例をもとに調べたり、民主政治について考えたりする。
- ・地方公共団体や国の政治は、国民の願いを実現し国民生活の安定と向上を図るために大切な働きをしていることを理解する。
- ・国民生活に政治の働きが反映していることや、日本国憲法が国家や国民生活の基本を定めていることを調べ、生活と政治の関連について広い視野から考えたり表現したりする。

## ■指導計画

- |                 |                   |
|-----------------|-------------------|
| 1 東日本大震災の被害     | 2 被災した人への緊急の支援    |
| 3 まちの復興に向けた取り組み | 4 住民の願いと政治の働き     |
| 5 市民の願いと税金のはたらき | 6 選挙と政治           |
| 7 国会のはたらき       | 8 内閣のはたらき         |
| 9 裁判所のはたらき      | 10 三権分立とわたしたちの暮らし |
| 11 政治と私たちの関わり   |                   |

## ■【第5時】

- 1 身近な暮らしに税金が役立っていることについて話し合う。
- 2 税金はどのように納めて、どのように使われているかを資料で調べる。
- 3 税金の使い道の特徴と、税の役割について考える。

調べた税の使い道を色分けして、税が大切な理由について自分の考えを発表し合おう。

- ・住民一人一人が健康で豊かな生活を送りたいという願いをもっている。
  - ・安全、安心、健康な暮らしが重視されている。
  - ・自然災害などの緊急事態への対応や支援にも、住民が納めた税が使われている。
  - ・国民の命を守るために、税金はとても大切。
  - ・みんなが納めた税なので、計画的に大切に使うことが必要である。
  - ・税の使い道についてしっかり考えたり、勉強したりしなければいけない。
- 4 税金の役割と、税金の使い方を決める市会について話し合う。

## ■【防災教育の視点】

自他の生命を尊重し、災害発生時や発生後に地域の安全に役立つ「公助」の観点から、納税の義務の意味を考える。

## &lt;展開例 13&gt;

## 6年 算数

「わくわくSDGs」「マテマランドを探検しよう」「算数 卒業旅行」

【水害に備えようプロジェクト】(関連：特別活動)

## ■単元の目標

- ・既習事項を活用して、表やグラフを考察し、必要な情報を選び水害に関する課題を解決する。
- ・水害の対策について話しあい、課題解決に向けた計画を考えることができる。

## 1 本時の課題をとらえる。

水害に備えてできることを考えよう。

- ・避難場所までの道のりや降水量について調べよう。

## 2 1-アの問題を解決する。

1/5000の地図上で、家から避難場所までの道のりが10cmだったとき、実際の道のりは何mかな。

- ・(式)  $10 \times 5000 = 50000$  (答え) 500m
- ・歩くと何分くらいかかるかも調べたいね。

## 3 1-イの問題を解決する。

1時間あたりの最大の雨の量が「非常に激しい雨」のときや「もうれつな雨」のときの回数は何回かな。

(表より)

- ・「非常に激しい雨」は、熊本市で26回、神戸市で6回、千葉市で10回、札幌市で0回。
- ・「もうれつな雨」は、熊本市が3回、神戸市、千葉市、札幌市は0回。

## 4 1-ウの問題を解決する。

1時間あたりの最大の降水量のちらばりのようすをヒストグラムに表して、比べよう。

- ・降水量のちらばりの様子が違うから、地域によってとるべき対策も変わりそうだ。

## 5 1-エの問題を解決する。

調べてわかったことをもとに、水害に備えるためにできることについて話しあおう。

- ・大雨の情報はどのように手に入ればよいのかな。
- ・みんなで助けあうための備えもあるのかな。

## 【防災教育の視点】

水害に関する資料から必要な情報を選択し、水害への備えについて考える。

## 教科等と関連した展開例（中学校）

## ＜展開例 14＞

## 1年 国語

「複数の情報を関連づけて考えをまとめる」 P.146～P.157

## ■単元目標

- ・比較や分類、関係づけなどの情報の整理の仕方、引用の仕方や出典の出し方について理解を深め、それらを使うことができる。
- ・読み手の立場に立って、表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができる。

## ■指導計画

## 【第1時】

防災訓練の案内リーフレットを作成するという学習の見通しを立て、防災に関する資料Aのグラフをふまえて、人々の行動の課題を考える。

## 【第2時】

資料Bの文章を読み、複数の人と一緒にいるときの心理傾向について読み取り、災害時にとるべき行動について筆者の意見を捉える。

## 【第3時】

資料Aと資料Bを関連づけて、地域の人々に防災意識を高めてもらうために大切なことについて考える。

## 【第4・5・6時】

3の学習をもとに、リーフレットに掲載する内容を決め、それにそった情報を集めてグループで情報を共有する。

## 【第7・8時】

6の学習をもとに、集めた情報をリーフレットにまとめ、まとめた内容を読み手の立場に立って読み返しなが、表現や表記などを工夫する。

## 【防災教育の視点】

災害時における人々の行動や日常の防災意識について、複数の資料から読み取れることをもとに考え、グループで対話を重ねたりすることで、実際の災害時に自分自身がどう行動すべきかや日常から災害に対してどのように備えておくべきかについて考えさせる。

## ＜展開例 15＞

## 1年 数学

## 数学の自由研究 「地震のゆれの予測のしくみ」 P.288

## ■単元の目標

- ・具体的な事象を調べることを通して、比例、反比例についての理解を深めるとともに、関数関係を見だし表現し考察する能力を培う。
- ・P波、S波が観測されるまでの時間と震源からの距離の関係について説明できる。

## ■【第1時】

- 1 地震のゆれの大きさと伝わり方について確認する。
  - ・初期微動を伝える（小さなゆれ）…P波、主要動を伝える（大きなゆれ）…S波について。
  - ・P波とS波は同時に発生する。観測地にまずP波が到達し、その後S波が到達する。
- 2 本時の課題をとらえる。

東日本大震災（東北地方太平洋沖地震）での各地の地震計の観測データからどんなことが分かるか。

- ・距離は時間にほぼ比例する。
  - ・P波、S波は一定の速さで伝わる。
- 3 グラフを活用し、S波がくるまでの時間について考察する。

震源から150 km地点でP波を観測したときS波が到達するまでの時間を求める。

- ・約20秒後にS波が到達する。
- 4 類似問題を提示し、考察する。

## 【防災教育の視点】

ゆれの大きさや伝わり方の規則性に気づくことで地震への理解を深め、備えができる。

## ＜展開例 16＞

**1年 技術家庭【技術分野】**

「丈夫な製品を作る工夫」 P.52～P.53

**■単元目標**

- ・丈夫な製品を作るための技術の工夫について理解する。

**■指導計画**

- 1 建物を丈夫にし、地震に耐えるためにはどうすればよいかを話し合う。
- 2 さまざまな条件の中で、構造と部品を丈夫にすることを取り上げ、その方法を考える。
- 3 構造を丈夫にする基本的な方法を3つ示し、それぞれボール紙で模型を作って丈夫さを比較してみる。
- 4 部品を丈夫にする基本的な方法を3つ示し、それぞれボール紙などを用いて丈夫さを確かめる。
- 5 学校や通学路、自宅などで、3や4のような工夫があるかどうか話し合う。

**【防災教育の視点】**

建物の耐震構造について理解し、震災に耐えられるように準備する。

**3年 技術家庭【家庭分野】**

「地域での協働を目指して」(東書) P.264～P.267

「かかわり合う地域と家庭」(開隆) P.76～P.81

**■題材目標**

- ・家庭や地域の人々とともに協力・協働することの大切さを理解する。

**■指導計画**

- 1 地域の人(子どもや高齢者、心身に障がいのある人、外国人など)とのかかわりについて話し合う。
- 2 地域の自治会やNPOなどの団体とのかかわりについて話し合う。
- 3 地域との避難訓練を例にあげ、中学生と地域とのかかわりを話し合い、協力して活動したり、助けあったりしていることを理解する。

**【防災教育の視点】**

災害時に中学生ができる共助について考える。

## ＜展開例 17＞

## 1・2・3年 特別活動

「避難所づくり、避難所運営を体験し、避難所生活の課題を検討しよう。」

## ■単元の目標

- ・避難所を設置する際の手順や避難所生活の課題を理解し、課題解決に向けて協力して取り組む態度を身につける。

## ■指導計画

- 1 避難所運営委員会から避難所運営のルールや設置の手順について説明する。
- 2 避難所運営委員会の指示で体育館に簡単な避難所を設置する。
  - ・机や椅子、段ボールなどを使って居住スペースをつくる。
  - ・さまざまな配慮を必要とする者への配慮スペースを考える。
  - ・災害備蓄品のチェック、非常時持ち出し品の確認。
- 3 参加者の中で避難してくる人と運営する人などの役割分担をする。
- 4 避難者の受付作業、情報収集、避難所への誘導、応急手当の方法などを体験する。
- 5 いくつかの班に分かれて、避難所生活のシミュレーションをする。
  - ・避難当日の地震の震度、気象条件、季節、時間、被災状況、避難者の様子等を設定して予測される課題をいくつか考え、解決策を検討する。
  - ・防災マップを活用して、予想される被害や課題の解決策を検討する。
- 6 全体で課題や解決策、感想などを発表しあう。

## 【防災教育の視点】

区役所や地域の役員と連携し、中学生としての避難所運営への参加と避難所生活の課題を考える。

## &lt;展開例 18&gt;

## 2年 社会（地理的分野）

## 「日本の地域的特色」 P.140～P.164

## ■単元の目標

- ・日本の地形や気候の特色、海洋に囲まれた日本の国土の特色、自然災害と防災への取組を基に、日本の自然環境に関する特色を理解している。
- ・日本の地域的特色を、地域区分などに着目して、それらを関連付けて多角的に考え考察し、表現している。
- ・日本の地域的特色と地域区分について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

## ■指導計画

- 1 山がちな日本の地形
- 2 川がつくる地形と海岸や海洋の特徴
- 3 日本の気候
- 4 日本のさまざまな自然災害
- 5 自然災害に対する備え
- 6 日本の人口
- 7 日本の資源・エネルギーと電力
- 8 日本の産業
- 9 日本の交通網・通信網
- 10 日本の地域区分

## ■【第5時】自然災害に対する備え（P.148～P.151）

- ・「日本のさまざまな自然災害」について前時の復習をする。  
→日本にはどのような自然災害が多いのか。（地震・火山・津波・集中豪雨・高潮など）
- ・日本では「防災」や「減災」のために、どのような取組が行われているのだろうか。  
→東日本大震災を教訓に、どのような対策が行われたのかを確認する。  
→災害発生時には「公助」に加えて、自分自身や家族を守り、また住民同士が協力して助け合う「自助」や「共助」といった行動が重要であることを確認する。
- ・ハザードマップを通じて、自分たちが住む町にはどのような被害が想定されるのかを予測する。また、根拠を踏まえて避難先や避難ルートを考え、お互いの意見を交流する。

## 【防災教育の視点】

ハザードマップの読み取りを通じて、自分たちが住む町で想定される被害を把握し、その際にどのような行動をとるべきかについて主体的に考えることができる。

## ＜展開例 19＞

## 2・3年 美術 【デザインや工芸など】

【表現・鑑賞】「わかりやすく情報を伝える」（光村）美術2・3 P.76～P.77

【鑑賞】「防災のデザイン」（光村）美術2・3 P.82～P.83

【表現・鑑賞】「ひと目で伝わるみんなのデザイン」（日文）上 P.40～P.41

## ■単元目標

- ・ピクトグラムのデザインに関心を持ち、非常時に伝えたい内容などを基に主題を生み出し、形や色彩などによる伝達の効果を考え、見通しを持って防災のピクトグラムをデザインし表す。

## ■観点別目標

- 1 具体物や行為を表す形の特徴などに着目し、伝達のイメージをとらえ、絵の具などの特性を生かし、見通しを持って表す。
- 2 伝えたい内容やイメージ、伝える場面などをもとに、形や色彩による伝達の効果を考え、構想を練ったり鑑賞したりする。
- 3 ひと目で伝わるピクトグラムなどをデザインすることに関心を持ち、意欲的に取り組む。

## ■指導計画

- 1 【光村】防災のためにデザインされた作品に関心をもち、作者の工夫や、防災におけるデザインの役割について考え、見方や感じ方を深める。  
【日文】身の回りにあるサインやピクトグラムを調べ、災害時にどのようなピトグラムがあれば、皆が安全に避難することができるかを考える。
  - ・ピトグラムは伝えたいことを文字に代わって視覚的な図や絵で表現した視覚記号である。
  - ・国際的な場や公共空間で使用され、言葉の違う人々や文字の読めない子どもたちにも直感的に情報を伝えることができる。
- 2 校内や身近な場所に活用できるサインやマークを基に、災害時に瞬時に正確な情報を伝えるピトグラムを構想し、アイデアスケッチをする。
  - ・どのような場所で、どんな災害かを基に、多くの人々に必要な情報が伝わり、共通に認識できるピトグラムの構想を練る。
  - ・ひと目で伝わり、場所や目的に合ったデザインであるか互いに批評し合い、アイデアを再検討する。
- 3 主題を基にどのような形や色を使えば効果的なのかを考え、その特徴を生かした効果的な表現方法を工夫し、見通しを持って作品を制作していく。
- 4 災害時における伝達の観点から互いの作品を鑑賞し合い、よさや美しさ、表現の工夫などについて話し合う。

## 【防災教育の視点】

災害時に効果的なピトグラムを考え、作品を制作していくことで災害に対する意識を高める。

## &lt;展開例 20&gt;

**2年 保健体育**

「自然災害による危険」「自然災害による傷害の防止」「共に生きる」  
「応急手当の意義と方法」「心肺蘇生法」 P.76～P.85

**■単元の目標**

- ・ 傷害の発生要因およびその防止について、課題を発見し、その解決をめざした学習に主体的に取り組み、理解できるようにする。

**■指導計画****【第1時】**

「自然災害による危険」(P.76～P.77)

地震などの自然災害による傷害は、発生直後に起こる一次災害、続いて起こる二次災害の防止が必要であることを理解できるようにする。

**【第2時】**

「自然災害による傷害の防止」(P.78～P.79)

地震などの自然災害による傷害を防止するためには、災害に備えた安全対策や災害時の安全な行動が必要であることを理解できるようにする。

「共に生きる」(P.80～P.81)

大きな災害が起こったときには、心に大きな傷を受けたり、避難所生活などを強いられたりするため、自助、共助、公助が必要であることを理解できるようにする。

**【第3時】**

「応急手当の意義と方法」(P.82～P.83)

傷害による出血や骨折などの際には、迅速かつ適切な手当が傷害の悪化を防止できることなどについて理解し、止血法や包帯法ができるようにする。

**【第4時】**

「心肺蘇生法」(P.84～P.85)

心肺停止に陥った人に遭遇したときの応急手当として心肺蘇生法があることとその方法について理解し、胸骨圧迫、AED使用などの心肺蘇生法ができるようにする。

**【防災教育の視点】**

自然災害による危険や傷害の防止、応急手当の意義や方法、心肺蘇生法などを学ぶ。

## ＜展開例 21＞

## 3年 理科

「2 自然が人間の生活におよぼす影響」(啓林) P.282～P.287

(参考)「自然災害と地域のかかわりを学ぶ」(東書) P.272～P.275

## ■単元の目標

- ・地域の自然災害を調べ、大地の変化の特徴を理解し、自然を多面的、総合的に捉え、自然と人間との関わり方について、科学的に考察して判断する能力や態度を身に付けさせる。

## ■指導計画

- 1 日本付近で発生する自然災害
- 2 地域の自然災害
  - ・地域の自然災害の調査

## ■【第2時】

○自分が住む地域における自然の特徴と生活とのかかわりを調べる。

- 1 地域の特徴を調べる
  - ・地形図などをもとに、生活している地域の特徴を調べまとめる。
- 2 過去の自然災害と防災・減災の取り組みを調べる
  - ・地域で起こった地震、火山の噴火、台風、洪水などによる自然災害を調べる。

地域で起こった自然災害にはどのようなものがあったか。また地域の自然の特徴とどのような関係があるか。

- ・自然災害から身を守る防災・減災の取り組みや備え、ハザードマップなどについて調べる。

自然災害から身を守る防災・減災の取り組みや備えにはどのようなものがあったか。またハザードマップと地域の自然の特徴とはどのような関係があるか。

## 【防災教育の視点】

過去の災害と地域の自然の特徴について調べ、防災・減災の手立てや備えについて考える。

## &lt;展開例 22&gt;

## 3年 英語

「Unit 4 “How can we help each other in a disaster?”」(東書) P.51～P.58

## ■単元の目標

・防災・安全への意識を高め、地域の一員として取るべき行動を考えて伝え合うことができる。

## ■指導計画

## 【第1時】

- 1 関節疑問文の構造を理解する。
- 2 緊急事態が起きた時、学校ではどうすればよいのか考えさせる。また学校の非常階段や非常口の場所を知っているかどうかをペアで伝え合う。

## 【第2時】

- 1 東日本大震災について知っていることについて話し合う。
- 2 動詞+(人)+whatなどで始まる節の構造を理解する。
- 3 ディスコースマーカーに着目しながら本文の概要を時系列で捉える。

## 【第3時】

- 1 再度、本文を読み、Q&Aに答えて内容を理解する。
- 2 おたがいの好きな有名人や身のまわりの人について知るために、その人がどのような人に愛されているかをペアで伝え合う。

## 【第4時】

- 1 Unit Activity の「防災のためにどんな助け合いができるか伝え合おう」や「テイラーさんのストーリーと、防災への取り組みについて発表しよう」を通し、このUnitで学んだ文法事項や内容の定着を図る。

## 【防災教育の視点】

災害発生時における対応とともに、災害の記憶を引き継ぐために何ができるかを考える。

## &lt;展開例 23&gt;

**3年 道徳**

## 「二通の手紙」

**■単元目標**

- ・法やきまりの意義を理解し、それらを進んで守るとともに、秩序と規律のある社会を実現しようとする態度を育てる。
- ・法やきまりのよりよい在り方について考え、自他の権利を大切にする態度を育てる。

**■指導計画**

## 1 資料の精読

- ・登場人物それぞれがおかれた状況はどうであったか。
- ・元さんは、なぜ、規則を破ってまで姉弟を入園させたのだろうか。
- ・姉弟を入園させたことで、どのようなことが起こったか。
- ・母親からの手紙はどのような内容だったか。
- ・懲戒処分の通告はどのような内容だったか。
- ・二通の手紙を読んだ後、元さんはどのような行動をとったか。

## 2 中心発問1について考える。

例「その手紙を元さんは何度も何度も繰り返し読んでいた。」(P.142)のはなぜか?

## 3 中心発問2について考える。

例「元さんの姿に失望の色はなかった。それどころか、晴れ晴れとした顔で身の回りを片づけ始めたのだった。」(P.144) 懲戒処分の通告を受けて、なぜ晴れ晴れとしているのか?

## 4 この学習を通して、感じたことや考えたことを発表しあう。

例・自分が元さんの立場だったなら、このようなとき、どのように対応すると思うかについて話し合う。

- ・法やきまりはなぜあるのか、それを破ることでどのような問題が起きるのかについて話し合う。

## 5 家族や地域の方々にも学習の内容を説明し、自分の意見を述べ、それらの方々の意見を聞いてくる。

**【防災教育の視点】**

被災後の生活や、避難所での生活において、他の被災者のことを考えながら、ルールを守って生活していく意識を高める。